

# 令和5年度 第73次印旛地区教育研究集会 紙上提案資料

第2部会体育研究部

成田市立加良部小学校 宮本 翔

成田市立久住小学校 小林 竜平

## 1 研究主題

協働的な学びにつなげるための体育科学習  
～低学年 鉄棒運動遊び 個別最適な学びの充実を目指して～

## 2 主題設定の理由

### (1) 学習指導要領及び、中央教育審議会から

平成29年に告示された学習指導要領では、3つの目標が示されている。その中の1つに、「心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することから、運動や健康について自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養うこと」とある。

また、令和3年には中央教育審議会により、「令和の日本型学校教育」の構築について答申が出されている。その中で、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿に「個別最適な学び」と「協働的な学び」が示されており、それぞれの学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。

#### ※個別最適な学び

##### ①指導の個別化

- ・支援が必要な子供により重点的な指導を行うことなど効果的な指導の実現をすること
- ・特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定をすること

##### ②学習の個性化

- ・子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供すること

#### ※協働的な学び

- ・「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働すること
- ・一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出すこと

### (2) 教職員の調査から

成田市・富里市・栄町の体育科を指導する教職員307名を対象に、体育科学習、器械運動（遊び）に関するアンケートを行った。

「体育科の学習の中で、指導が難しいと感じる領域」という問いに対し、器械運動（遊び）が34%と1番多く回答された。

(図-1)



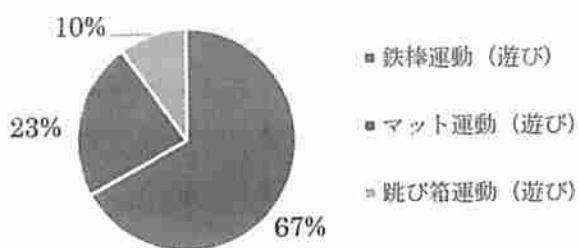
体育科の学習の中で、指導が難しいと感じる領域はどれですか、図-1

「器械運動（遊び）で指導が難しいと感じること」という問いに対し、「技能差が大きい」が64%と突出して多かった。技能差が大きいことから、同じ課題で一斉授業をすることが難しいため、個別に課題を設定するなど個に合わせた学習方法が求められている。（図-2）



「器械運動（遊び）で児童が主体的に取り組んでいないと考えるもの」という問いに対し、67%の教職員が「鉄棒運動（遊び）」と答えている。教師側から課題や技を提示することが多かったり、安全面を意識しすぎてしまい自由に組みわせることに抵抗があったりすることが理由として考えられる。（図-3）

「令和3年に中央教育審議会より示された答申の中にある『個別最適な学び』と『協働的な学び』を知っているか」という問いに対し、55%の教職員が「名前だけ知っている」「知らない」と答えた。2つの学びが体育科学学習の中で十分に取入れられていないことが予想される。（図-4）



器械運動（遊び）で児童が主体的に取り組んでいないと思うものはどれですか。図-3

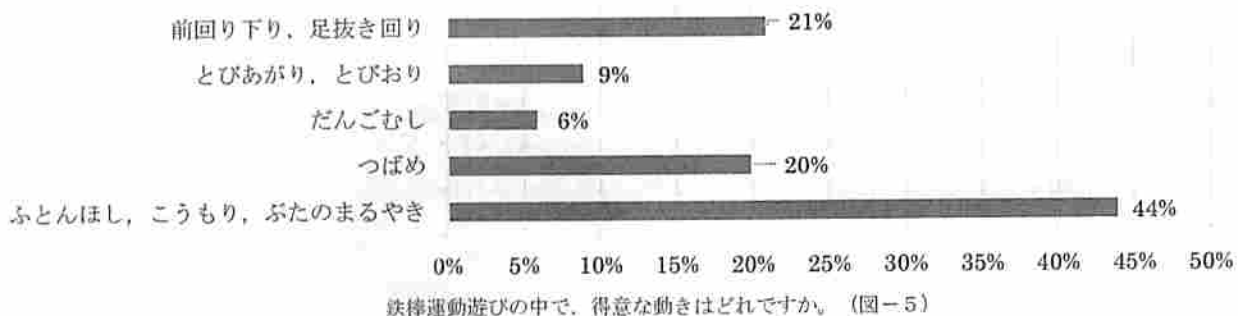


令和3年に中央教育審議会より示された答申の中にある「個別最適な学び」と「協働的な学び」を知っていますか。図-4

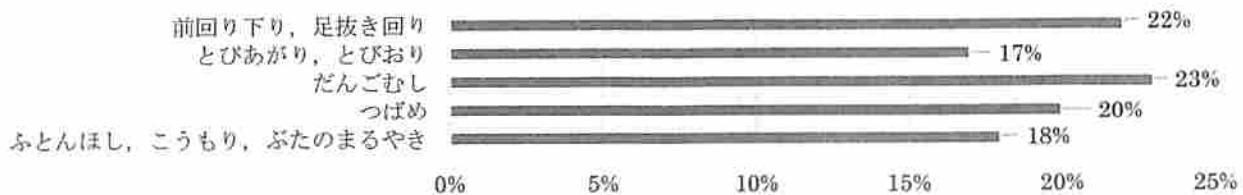
### (3) 児童の意識調査から

成田市・富里市・栄町の小学校第1・2学年児童2,529名を対象とし、鉄棒運動遊びに関する意識調査を行った。

意識調査の結果では、「鉄棒運動遊びの中で、得意な動き」という問いに対し、「ふとんほし、こうもり、ぶたのまるやき」と回答した児童は44%と最も多かった。（図-5）

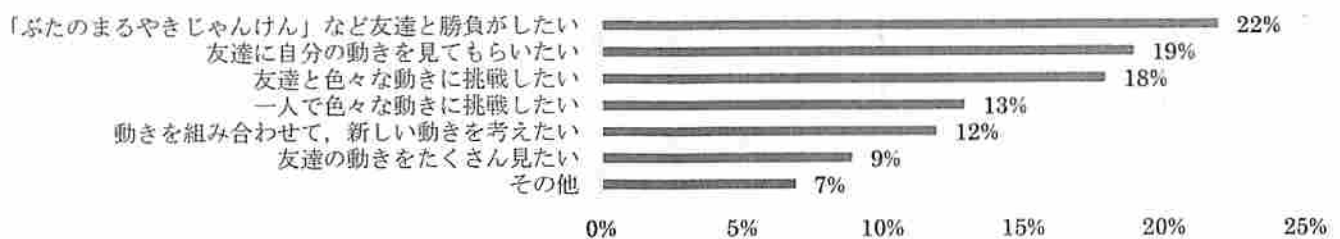


一方で、「鉄棒運動遊びの中で、苦手な動き」という問いに対しては、5つの項目に満遍なく回答が分かれ、突出して回答されるものが見られなかった。(図-6) 1番多く回答された「だんごむし」と、1番少ない回答だった「とび上がり、とび下り」との割合の差でさえ、6%となった。このことから、鉄棒運動遊びの中で得意な動きは一つのものに偏る傾向にあるが、苦手な動きについては、個人によって変わってくる傾向があると考えられる。



鉄棒運動遊びの中で、苦手な動きはどれですか。(図-6)

「鉄棒運動遊びで、どのようなことがしたいか」という問いに対し、「友達と勝負がしたい」が22%と最も多く、次いで「友達に自分の動きを見てもらいたい」の19%、「友達と色々な動きに挑戦したい」の18%と続き、友達と関わり合いながら学習を進めていくことを望む児童が多い結果となった。一方で、「一人で色々な動きに挑戦したい」と回答した児童も13%おり、個人での活動で学習に取り組むことを望む児童も一定数いることが分かった。(図-7)



鉄棒運動遊びで、どのようなことがしたいですか。(図-7)

#### (4) まとめ

「(1) 学習指導要領及び、中央教育審議会から」では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が求められている。「個別最適な学び」(個に応じた指導)には、「指導の個別化」と「学習の個性化」の2つの側面がある。

「(2) 教職員の調査から」では、器械運動(遊び)の指導を教職員は難しいと感じていることが分かった。その理由として、児童の「技能差」について挙げていることから、児童一人一人の特性や学習進度、学習到達度等の把握は出来ているものの、技能に応じた個別の指導方法や学習時間の柔軟な提供・設定を行うことができていないことが考えられる。つまり、「指導の個別化」が実現されていないと言える。

「(3) 児童の意識調査から」では、児童が課題と捉えている動きが一人一人によって異なっていたり、様々な学習への取り組み方を求めていたりすることが分かる。そこで、個に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、児童自身の学習が最適となるよう調整できる「学習の個性化」を取り入れることが一層求められる。

実現すべき姿は「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実となるが、現状の体育科学習では、十分な「個別最適な学び」を実現することが難しく、必然的に「協働的な学び」に繋げることができていないと考える。

以上のことから、第2部会体育研究部では、「協働的な学び」に繋げていくための「個別最適な学び」を充実させることに着目して研究を進めるため、本主題を設定した。

### 3 研究仮説

#### 仮説1

一人一人が目指したい動きを見出すための工夫を行い、課題を明確にした上で運動遊びに取り組むことができれば、児童が自らの課題に合った遊び方を選ぶ力が身に付くだろう。

- 動き方をまとめた映像資料や写真を活用し、児童が動きのイメージをもって取り組みやすくする。
- 遊びの内容や動きの大きさを数値化した学習カードを使い、一人一人の課題を把握する。

#### 仮説2

一人一人の課題に取り組むことができる単元計画を作成することで、児童が目指したい動きが身に付くだろう。

- 1時間ごとに取り組む動きを選別し、児童が課題に焦点化しやすいようにする。
- 第1段階（課題把握）、第2段階（課題選択）、第3段階（発展学習）と段階を分けることで、毎時間目的意識をもって学習に取り組めるようにする。

### 4 研究計画

時 期	研究内容
<b>【令和4年度】</b> 11～12月  2月   3月	○第1, 2, 3回学習会 ・提案者決め ・研究の方向性 ・研究主題の検討  ○第4回学習会 ・アンケート内容の検討  ○成田市・富里市・栄町小学校1・2年生児童対象にアンケートを実施 ○成田市・富里市・栄町小学校教職員対象にアンケートを実施 ○アンケート結果の集計, 考察, 分析
<b>【令和5年度】</b> 4月  5～6月 7月  8月 9月～11月  12月～ 3月	○第5回学習会 ・研究仮説の検討 ・理論研修  ○資料作成  ○第6回学習会 ・授業内容検討  ○紙上提案 ○第7回学習会 ○授業内容検討 ○授業研修 成田市21校・富里市7校・栄町4校 ・授業の実践 ・実践の反省 ・授業内容検討 ・データ集約  ○研究のまとめ
<b>【令和6年度】</b> 4月～7月  8月	○提案資料作成  ○印旛地区教育研修会 本提案